

中国茶の緑茶

このところペットボトルの中国緑茶を、コンビニなどで見かけるようになりました。これまで日本では中国茶といえばイコール烏龍茶かジャスミンティ。そして緑茶といえば日本茶が常識。

しかしコマーシャルでもうたわれているように、本来、中国では緑茶の常飲人口が8割を占めるといわれています。中国は乾燥している地域が多いせいか、あちらの人々は一日中、お茶を手元において、ひっきりなしにガブガブ。

昨年、上海に遊びに行った時のことです。タクシーに乗って、ふと運転席の横に目をやると、インスタントコーヒーのビンのようなものがぶらぶら揺れていました。なんだろうと思って、よくよく目をこらすと、薄緑色の液体の中に葉っぱのようなものがふわふわ。そう、緑茶だったのです。

改めて街を見てみれば、公園で午後のひとときを過ごしているおじいさんたちの脇にも、屋台のおばさんたちがこしかけている小さな椅子の横にも、同じようなビンがちんまりと置いてあります。茶葉をこまめに替えるのではなく、飲んではお湯を足し足し、一日中持ち歩くのがご当地流。魔法瓶など七面倒くさいものではなく、

丈夫で元手のかからない空きビンを使うというあたりが、これまたなんとも大陸的、と妙なところに感心してしまいました。

さて、気になるのはそのお味。街の茶葉屋さんをのぞくと、100グラム100円ぐらいのものから、数千円のものまでランクもピンからキリまであります。もちろん、ガブ飲み用の普段使いにはお安いものが人気だそうですが、私はちょっと張り込んで、1000円から2000円ぐらいのものをいくつか買ってみました。ちなみに緑茶といってもいろいろな種類があって迷うところですが、私が選んだのは“龍井”。

茶壺と呼ばれる急須に、茶葉を大さじ2くらいパラパラ。熱湯をたっぷり注いで、待つこと3分強。茶杯に注ぐと、淡い緑が揺れ、かすかに若草のような香りがしてきます。

ひとくち含むと・・・日本茶が蒸して甘みを強調して作られるのに対して、炒って香りを引き出すように作られる中国茶はほんのり苦く、ややざらっとしたベルベットのような舌触り。探るようにもうひとすすりすると、口の中はさっぱりと清々しく、喉元を落ちていくごとに体まで薄い緑に染まるよう。また、いくつか飲み比べると、香り、味わいにそれぞれ違いがあり、う～む、これがなかなか奥深い。

茶葉はもちろん日本でも買えます。最近では全国に中国茶専門店ができてきましたし、インターネットなどで通販をやっている店も少なくありません。日本でも新茶が珍重されるように、中国でも春から初夏はお茶の最盛期とか。ペットボトルも悪くないけれど、中国茶、はまってみると、結構、イケます。



KOMIYA DENTAL NEWSLETTER

7 2002年 月号



今年の梅雨は暑い日と寒い日の寒暖が激しく感じます。

さて6月は、6月4日の「むし歯予防デー」から始まる「歯の衛生週間」、それに時期を合わせて行われる学校・幼稚園・保育園などの健診、さらには雑誌・テレビ・マスメディアで歯科関係の話題が提供される機会が増えるためか、来院患者さんの数がふだんの月より多くなります。その上当院の院長は、6月22日（土）に行われた葛飾区の学校歯科医会主催『よい歯のつどい』（今年で34回目を迎えます）の講演依頼を受け、その準備やらプレゼンテーション作りが加わりました。

当日会場のテクノプラザ大ホールには600人の聴衆が集い、葛飾区長はじめ多くの来賓をお迎えして会は大いに盛んに行われました。ふだん患者の皆様にお話している予防の話をしたのですが、画像や動きを加えたパソコンでのプレゼンテーションを準備し、こみや歯科医院の患者さん以外の多くの方にも予防の大切さを知っていただくこと、かなり力が入った準備をしました。これが大忙しの原因にはなりませんが、聴衆や関係者の皆さんには「分かりやすくよかった」と好評で、苦労した甲斐があったと院長はとても喜んでます。

毎月保険証の提示に御協力頂きありがとうございます。
このニュースレターは当院のオリジナルで毎月発行しています。

☆診療日変更のお知らせ☆

7月20日(土)～22日(月)・・・連休
8月14日(水)～18日(日)・・・夏休み } です



〒125-0041 葛飾区東金町1-45-2 ハヤシ駅前ビル2F

☎ 03-5699-8888